



二塚小だより

平成29年6月
学校だより
高岡市立二塚小学校

「分かる」「できる」楽しさを求めて — 本校の研修会を終えて —

ひと雨ごとに木々の緑が色濃く美しさを増しています。

先月の運動会では、子供たちに温かい声援を送っていただきありがとうございました。運動会という大きな行事を終えて、子供たちは心も体も一回り大きくなったようです。

さて、6月の中旬に本校で研修会があり、外部の先生方が数多く来校されました。その際、全学級の授業を参観されましたが、どの先生も同じように感心されたことがあります。それは、本校の子供たちの学習の様子です。どの学級の子供たちも教師や友達の考えをしっかりと聴き、落ち着いて学習しているとおっしゃいました。休憩時や清掃の様子も見ていただきましたが、ある先生が、休憩時、本校の子供に「学校は、楽しいですか。」と尋ねたそうです。その子は、「学校は楽しい。特に算数が楽しいです。」と答えたそうです。



県西部のほとんどの学校を視察されている先生方より、子供たちの学習の様子を認めていただいたことは、私たち教職員にとって、とてもうれしいことでした。ただ、このような学習態度や習慣は、学校だけでなく、ご家庭や地域の教育力によって培われています。私たちは、これからもご家庭や地域の皆様と連携していくことを願うとともに、素直で吸収力のある本校の子供たちを、授業を通してさらにたくましく育てたいと思います。

当然のことですが、子供にとって学校の第一義は、学習です。子供たちは学習を通して、技や力を身に付け、自信をもつことができます。時には、難しい課題だと感じることもあるかもしれませんが、友達と一緒に、とことん考えたり、技の習得のために練習したりする。共に一生懸命に取り組むから、分からない友達の蔑んだり、できない友達のいじめたりするような心の隙間ができない。学習の楽しさは、教師と子供、子供同士の温かい人間関係を土台とし、学級の全員が課題解決に向けて真剣になるところに生まれると考えます。「算数が楽しい」と答えたあの子供も、初めから算数が好きだったわけではないでしょう。あるとき、教師に教えられ、友達の考えをヒントにして、自分の力で「分かる」「できる」喜びを味わった。そのときから算数科の学習を楽しいと感じ、自分を表現できるようになったと察します。

私たちは、子供たちが本気になって課題に取り組み、自分たちの力で課題を解決して「分かった」「できた」と思えるように、これからも研修を積み重ねて参ります。

今後の予定（7月）

- 7. 1(土) ふるさとクリーン作戦
AED講習会(P.T.A)
- 2(日) 5年親子ふれあい活動
- 7(金) ふれあいスマイル集会
- 10(月) 地区別児童会

- 15(土) 1年、2年親子ふれあい活動
- 21(金) 保護者会・給食終了
- 24(月) 1学期終業式
- 25(火) 夏季休業開始

スマホ・ケータイって便利で危険！

教頭 長原 史明

6月16日（金）に保護者対象のスマホ・ケータイ安全研修会を開きました。高岡警察署生活安全課の方を講師として招き、お話をいただきました。以前は学校から依頼される講演内容は主に非行防止についてでしたが、今はスマホ・ケータイを使ったネット犯罪防止の話がほとんどだそうです。それは、急激なスマホ・ケータイの普及、無線LANによる誰でも簡単につながるインターネット環境の普及、それに伴うSNS等コミュニティサイトに起因した犯罪の多発等が関係していると思われます。

では、スマホ・ケータイ等を使ったネットによる危険にはどんなものがあるでしょう。

- ・無料を装ったゲームの中には課金のものがあり、高額なお金を支払わなければならないときがある。
- ・スマホの依存症になり、勉強が集中できなくなり、寝不足になってしまう。
- ・悪ふざけのつもりで友達の悪口やうその情報を流し、友達を傷つける。
- ・特定の個人をグループから外し、嫌がらせをする。
- ・インターネットで見知らぬ人と友達になり、恥ずかしい写真等を送り画像が流出してしまう。
- ・コミュニティサイトで知り合った人と出会い、被害にあう。 など



スマホ・ケータイは、便利なもので今や私たちの生活の中で欠かせないものとも言える今日、私たち大人はどのようにして、子供たちに危険を呼びかけていけばよいのでしょうか。犯罪やトラブルから子供を守るために、次のような家族のルールを作ることが大切です。

- ・利用する時間や場所を決める。（9時以降使用しない、使用場所は家族のいる居間だけ、それ以外は保護者が管理する等）
- ・接続するサイトやダウンロードするアプリを保護者が確認する。
- ・知らない人とメールやメッセージを交換しない。
- ・フィルタリングを利用する。



高岡警察署の方が話しておられた一番の安全対策は「家族が日頃からコミュニケーションをとる」ことだそうです。どんなサイトをどのように利用しているか気軽に会話できる関係、困ったときにはすぐ相談できる関係であることが大切です。また、私たち大人もどのような危険があるかを知り、子供たちに伝えていくことも大切です。

学校では、アウトメディアの視点から生活習慣を見つめ、よりよい生活を送ることができるように取り組んでいます。この機会に、家族でスマホ・ケータイやインターネットの使い方について話し合ってみてはいかがでしょうか。

脳を育てる

養護教諭 内島 和美

「天皇・皇后両陛下にオーラを感じた。」新高岡駅で天皇皇后両陛下を拝見することができた子供の感想です。テレビで陛下を見て、同じことを思うでしょうか。同じことが将棋やトランプをしているときにも当てはまります。雨天時等、子供たちと休み時間にトランプのばば抜きをすることもあります。今ジョーカーはどこにあるのかを相手の目の動きやかすかな表情の変化を必死に読み取りながら行っています。勝つと「やったー」と叫び、負けても「もう一回」と笑顔です。本物に触れるとき、また、人と関わりながら何かをしているとき、人の脳はフル稼働していることが、脳の血流量を画像にすることで明らかになりました。ゲーム機でトランプや将棋をしても、最初は脳はよく働くけれど、慣れてくると視覚野しか働かなくなるそうです。



足を鍛えることで足が速くなるように、脳をよく働かせることで脳も使った分だけ鍛えられ、勉強がよく分かる、人にも優しくすることができるようになります。

今、まさに子供たちの脳は発達している真っ最中です。メディアを通すのではなく、本物に触れ、どんどん成長させてあげたいものです。